

赤い糸で結んだのは誰？——受動態の機能

英語の他動詞文の多くは、能動態(active voice)と受動態(passive voice)の区別があります。中高生向けの英文法などで、「受動態は能動態の主語と目的語をひっくり返したものである」といった言い方(または覚え方)をすることがあるかもしれませんが、これは正しくありません。他動詞文の能動態と受動態は、最も典型的な場合については次のように規定されます：

- (1) 能動態——「動作行為の主体」を主語(S)とし、「動作行為の対象」を目的語(O)としたもの
- (2) 受動態——「動作行為の対象」を主語(S)とし、「動作行為の主体」を背景化したもの

(1)(2)において、「動作行為の主体[動作主・行為者]」のことを agent, 「動作行為の対象[被動者]」のことを patient と呼ぶことがあります。agent, patient は名詞句が文の中で果たす意味役割(semantic roles)の種類です。具体例で考えてみましょう：

- (3) Christopher Columbus discovered America in 1492.
- (4) America was discovered in 1492 by Christopher Columbus.

(3)は能動態の文で、「発見する」という行為の agent ('Christopher Columbus') が主語、patient ('America') が目的語になっています。他方(4)は受動態の文で、patient が主語になり、agent は前置詞 by の句によって表されています。このように、agent が文の主語や目的語ではなく(単なる)前置詞句で表されるということは、受動態では agent が文の意味上重要なものではなく(すなわち、背景化している)ことを表しています。受動態における agent の意味的背景化はしばしば by の句の省略をもたらします：

- (5) America was discovered in 1492.

(5)は agent が明示されていませんが、文としてはこれで何も問題ありません。これに対して、能動態の場合は、agent を明示しないと主語の位置が空き家になってしまい、文として成立しなくなります：

- (6) * ϕ discovered America in 1492. (*は文として成立しないもの(=非文)を表す)

受動態は能動態と異なり agent が背景化していてその表示が任意である(すなわち、文の中で省略可能である)わけですが、実際受動態の文の8割(以上)が agent のない文(agentless passives)であるという報告もあり(cf. Berk 1999: 120; 久野・高見 2005: 67)、<agent の非明示>は受動態を特徴づける機能の一つであると言っても過言ではありません。agent が明示されないのはいろいろな理由がありえますが、その一つは agent が不明のために明示できない場合です。次例を参照：

- (7) My cousin was mugged yesterday. (Berk 1999: 120)

この場合は'mug(路上強盗をはたらく)'という行為の犯人が不明なので、明示できないわけです(もちろん、by someone などの形で表すことはできますが、someone の正体が不明であり、表現の情報量がゼロに等しいので無意味です)。これ以外に、agent は明示できるが自明なので明示する必要がないという場合もあります。次例参照：

- (8) These questions are addressed in this paper through a study of chromosomes. (久野・高見 2005: 69)

(8)はある論文の冒頭部分ですが、この場合は'address((問題)に取り組む、(問題)を取り上げる)'という行為の主体はもちろんこの論文の著者であり、それは自明のことなので明示する必要がないということです。さらに、agent は明示できるが明示しないほうがよい／明示したくないという場合もあります。次例を参照：

- (9) The clothes were left in the dryer. (Berk 1999: 121)

(9)は「(洗濯した)衣類が乾燥機の中に入ったままになっている」ということですが、'leave(入れたまま放置する)'という行為の主体はこの文の発話の相手かもしれないし、あるいは発話者本人かもしれません。しかしこの場合、そのような agent を発話の中で明示することが談話の構成上適切でない(もし agent を明示したら行為の責任の問題が前面化する)と判断されるので、それを明示することを避けているわけです。

上では agent が明示されない受動文の例を見てきましたが、こうした agentless passives の中には、その agent を探してみると思いがけないものが agent になっている場合があります。次の各々の受動態の意味とその agent を考えてみてください：

- (10) If properly fed and given the right nutrients, our body is designed to repair itself.
<http://www.brainandbodywellnesscenter.com/understanding-whole-food-supplements/>
- (11) Mothers are hardwired to protect their children. (MWALED)
- (12) The couple are meant for each other. (新グローバル英和、'mean') (← couple が複数扱いされているため、述語動詞は are になっている)